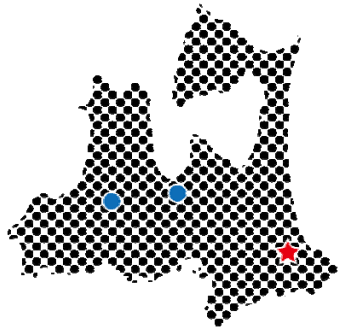


「八戸中心街ターミナルモビリティセンター」を核とした 多様な利用促進策の展開

▼関下和裕／伊地知恭右／原文宏（一般社団法人北海道開発技術センター）／八戸市都市整備部都市政策課



テーマ（問題）

路線バスの総合案内所、さらにはMM政策の考案と実施を担うバス利用促進拠点である『八戸中心街ターミナルモビリティセンター（略称：モビセン）』。八戸の中心街になくなくてはならない存在になるために・・・。

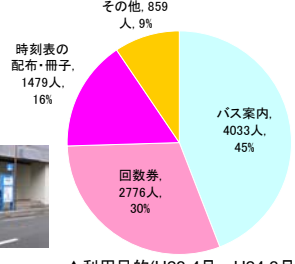
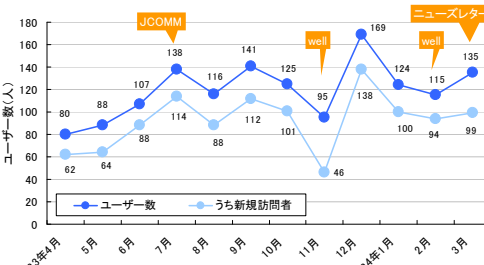
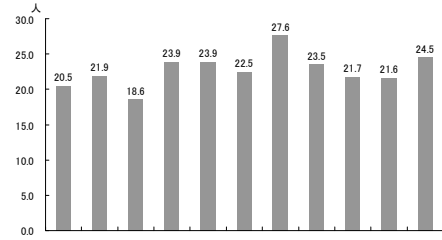
業務内容と活動内容（H23実施結果）

▼地域生活交通再生ミッションリー業務（八戸市緊急雇用創出事業）を活用



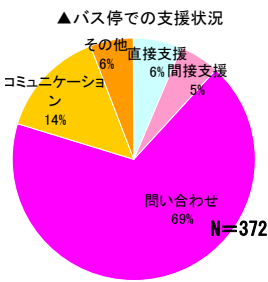
カウンター業務

バスの案内（路線・時刻・運賃など）・回数券の販売・情報発信

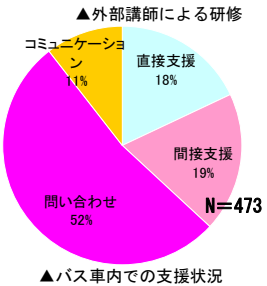


アテンダント業務

バスの乗降支援（お手伝い）



▲バス停でのアテンダント



▲外部講師による研修



▲標柱および周辺の清掃活動



結論

公共交通を皆で支えよう
こだま

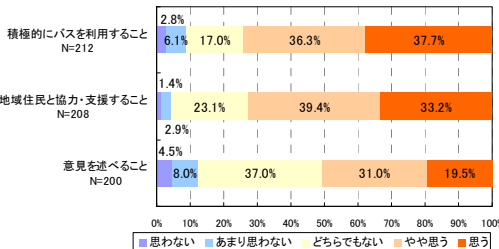
【モビセン】が継続的に運営されることを目指すには、多様な活動内容に応じた効果や有用性について適切に評価することが重要である。

一方で、最も重要なことは最低でもバス事業者から、できればバス利用者や市民からも「モビセンがあって助かる（モビセンがなくなると困る）」という声をいただくことである。

今後は、中心街に位置するメリットを活かし、まちなか活性化の視点での活動を通じた多様なステークホルダーとの連携を強化する中で【モビセンの必要性（≒存在感）】のPRを進めながら、継続的な運営を目指したい。



ワンショットTFP



ミッションリー業務

MM活動・MMツールの作成



▲沿線住民・バス事業者・行政・モビセンとの意見交換会



▲住民も対象とした成果報告会